

一県立大宮工業高校との共同製作— カエデの森に「ハチの家」を設置しました！

半田 宏伸

令和5年度に県立大宮工業高校と協働して「ハチの家」を製作、設置しました。このハチの家は、令和5年度定時制課程4年次生が卒業制作として取組み、当館はその監修を行いました。

ハチの家とは？

文字通り、昆虫の仲間「ハチ」の家となる設置物です。ハチの仲間には、筒状の穴に巣を作る種類があります。ハチの家は、そのようなハチの習性を利用して、巣作りに適した素材（竹筒など）を束ねて入れることで、ハチの巣作りの様子を観察したり、ハチの保全に役立てようとするものです。

欧米では“Bee Hotel”、“Bug Hotel”と呼ばれ、ガーデニングや環境教育に盛んに取り入れられています。日本では「竹筒トラップ」などと呼ばれ、学術調査の目的で用いられることが多いですが、最近では、様々な名称で保全や教育目的に設置されているケースも多数見られるようになりました。

見どころ①—ハチの家らしいデザイン

当館のハチの家は、木枠が「ハチの巣」を連想させる六角形のハミカム構造を模した形をしています（写真1）。

このデザインは、大宮工業高校定時制の生徒の皆さんが考案したもので、当初あった7つのデザイン案のうち、機能面だけでなく、展示物としても優れていた本デザインが採用されました。作りも丁寧で、木材同士の接合部も隙間がなく組み立てられて作られています。さらに、この木材は高校内で出た廃材を活用して作られているというのだから驚きです。

見どころ②—ハチたちの巧みな巣作り

筒に巣を作るハチは日本で約60種ほどが知られています。種類によって巣の作り方は様々で、巣の材料が泥だったり葉だったり、エサはイモムシだったり花粉だったりします。

ハチの家では、そうしたハチたちの巧みな暮らしを間近で観察することができます。



写真1. ハチの家

実際には、主にドロバチやハキリバチ、ギングチバチの仲間と、それらのハチに寄生するハチ類が見られることを期待しています。

本稿を執筆している7月上旬までの時点でも、すでにいくつかのハチの巣作りや寄生しにやって来た様子が見られました（写真2）。今後は、さらにどんなハチが見られるか楽しみです。

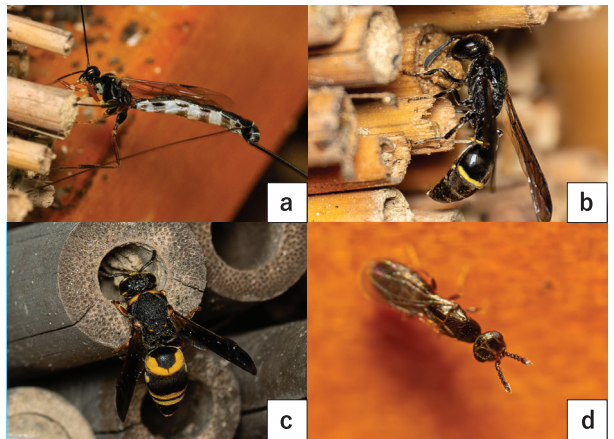


写真2

a. エゾホソオナガヒメバチ（5月）、b. サイジョウハムシドロバチ（5月）、c. カバオビドロバチ（7月）、d. クロヒラタコバチの一種（6月）

おわりに

ハチたちの巣作りは、種類に応じて4月下旬～9月ごろに行われます。

ご来館の際はぜひ、カエデの森まで足を運んでいただき、巣作りが行われていないか観察してみてください。

（はんだ ひろのぶ・学芸員）